

理工学研究科

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
	1年次	190 10 (190)	学内	学外	学内	学外	272 14 (286)	学内	学外
			311 4 (337)	144 28 (138)	282 3 (297)	114 27 (119)		157 1 (178)	56 13 (50)
学生の進路 (人)	修了者	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他	
			企業	教員	公務員				
	210 14 (217)	164 3 (190)	161 2 (183)	1 - (2)	2 - (5)	- - (-)	10 3 (15)	36 8 (12)	

・()は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

1 理工学研究科の活動

【教育】

科学技術立国を目指す我が国では、理工学全般に関連した技術分野における研究開発を推進するための人材供給に対する社会的要求は、ますます高くなってきている。特に、理工学分野に対する求人では、企業側から大学院修了者を強く求められ、最近の理工系技術者の大半は修士課程修了者となっており、修士課程大学院の理工学教育に対する社会の期待が非常に大きい。このような状況を反映して、理工学研究科に対する入学志願者数は定員を大幅に超えているのが現状である。また、理工学研究科修了学生に対する企業からの求人も、高い水準にある。これは当研究科における幅広い学際的知識を身につけた、高度職業人を育成する教育が如何に社会の要求に直接的に応えているかを客観的に証明するものと云うことができる。これらのことを背景として、さらに多くの優秀な人材を育てるのが本研究科の使命と考えて、毎年度、学生定員増を概算要求の重点項目として強く要求しているところである。

本研究科の構成教員の意識の向上を得て、高度職業人育成教育内容も、なお一層充実してきている。とくに当研究科と連携をとっているベンチャービジネスラボラトリーではアントレプレナー育成教育が鋭意進行中であり、地域企業との技術交流等も含めた新しい理工系教育の効果を示しつつある。また、ベンチャービジネスラボラトリーの協力の下に、ベンチャービジネス論(2単位)を開講し、受講者数は138名の多くを数えた。

【学生生活】

本研究科として期待される人格を具え、それに相応しい行動を行うための良識を身につけた学生を育てるため、主任指導教員による密接な教育研究指導を行うとともに、多くの機会を設けて厚生補導を心掛けている。入学時のオリエンテーションでは、研究の場と社会との接点において問題となる実験廃棄物の取り扱いに関する指導を行っている。また、精神衛生面における諸問題を解決するためのガイダンスを徹底させるとともに、教育・研究遂行に伴う危機管理と関連した事故対策についての指導も行っている。

2 教員の教育業績評価の状況

理工学研究科構成教官の学生教育及び研究指導に関する業績に関しては、本研究科内に設けられた自己点検・自己評価委員会によって客観的な評価を行っている。また、本研究科運営委員会を通じて、各分野における活動状況を常に把握し、これらを業績評価に有効に反映させている。

3 自己評価と課題

1項にも述べた通り、社会の要求に呼応した教育態勢を整備する努力をしているが、現実にはこれを上回った社会的要請があり、このような状況への質量両面での対応がさらに必要である。また、大学院博士課程の特に理工学関連の研究科の改組再編が修了したことと関連して、本研究科の研究および教育組織を改めて見直すことも次の課題となる。

学生選抜方法の多様化が求められ、この一環として当研究科の一部の分野で推薦入試を実施している。本制度の更なる拡充を含め、理工系大学院の入試を合理的に行うための改革が求められている。当研究科で行われている社会人特別選抜についても、一般入試と異なる学力検査を行い、社会人に特別の配慮をした選抜方法の改革を行った。